

# 志木市新庁舎の整備について

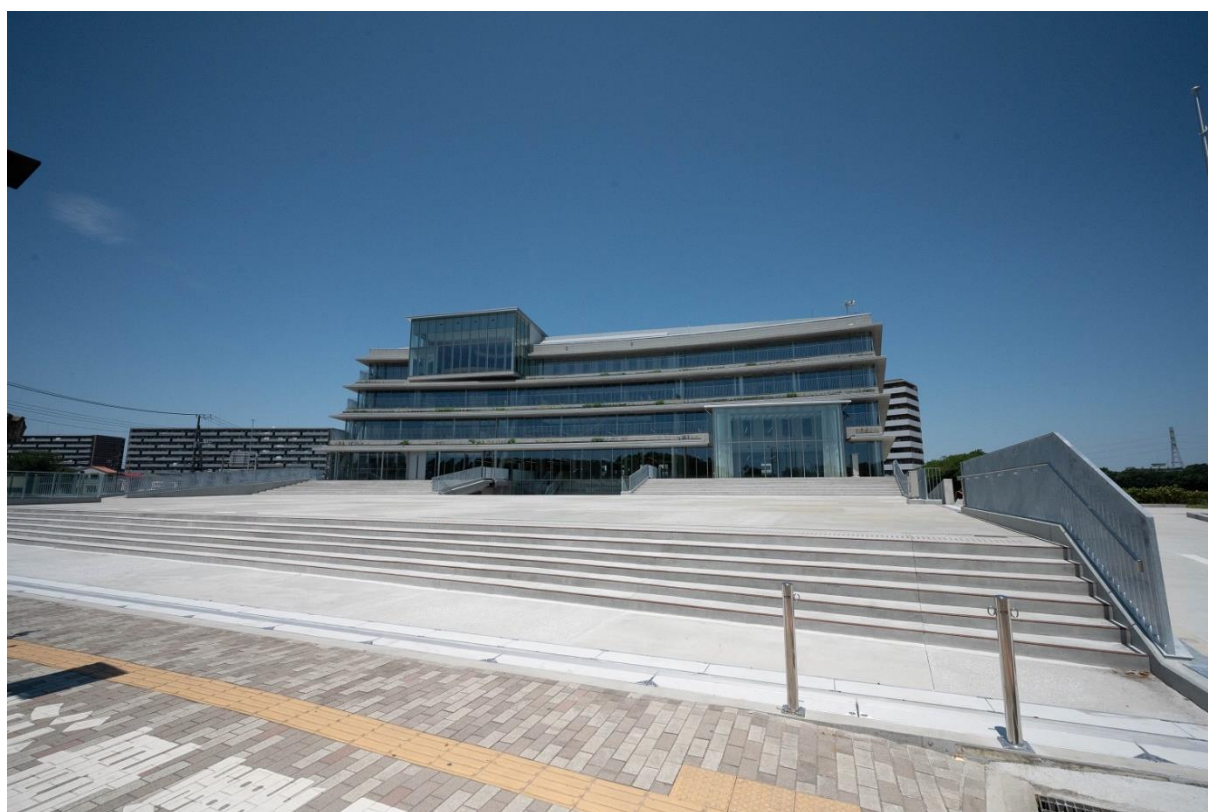
志木市 総合行政部 新庁舎建設推進室

## 1. 新庁舎建設の経緯

志木市旧庁舎は、昭和45年10月26日に市制を施行して間もなく、昭和47年5月に竣工しました。

以来、市民サービスの拠点としての役割を担ってきましたが、平成19年度に実施した耐震診断の結果、I s 値が一部で0.12と耐震性能が著しく低く、大規模地震が発生した場合、災害対策本部としての機能を果たせない懸念があるほか、建物・設備の老朽化も進行していたことから、庁舎の耐震化や長寿命化が大きな課題になりました。

市では、これらの課題を解決するため、様々な角度から今後の市役所のあり方を専門家や議会、市民の皆様とともに検証した結果、同一敷地に建替えることを決定し、令和2年初頭から約2年半をかけて旧庁舎の解体、新庁舎の建設を進め、令和4年6月30日に新庁舎建設工事及び一体的に整備を行った人工地盤建設工事が竣工、7月19日に開庁・業務開始を迎えたものです。



## 2 新庁舎概要

本事業は、敷地の北側部分に庁舎建物となる新庁舎棟、その前面となる南側にグランドテラスと呼ぶ大きな広場状の人工地盤棟を建築しました。2棟はエキスパンションジョイントで接続し、一体の建物となっています。

建物名称	新庁舎棟	人工地盤棟	合計
所在地	志木市中宗岡1丁目1番1号		
敷地面積	9,039.15㎡		
建築面積	2,548.03㎡	1,696.68㎡	4,244.71㎡
延べ面積	10,864.63㎡	1,757.00㎡	12,621.63㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造	鉄骨造	—
階数	地上4階 地下1階		—
工期	令和2年7月17日 ～令和4年6月30日	令和3年9月24日 ～令和4年6月30日	—
工事費	6,079,524,000円	661,976,000円	6,741,500,000円

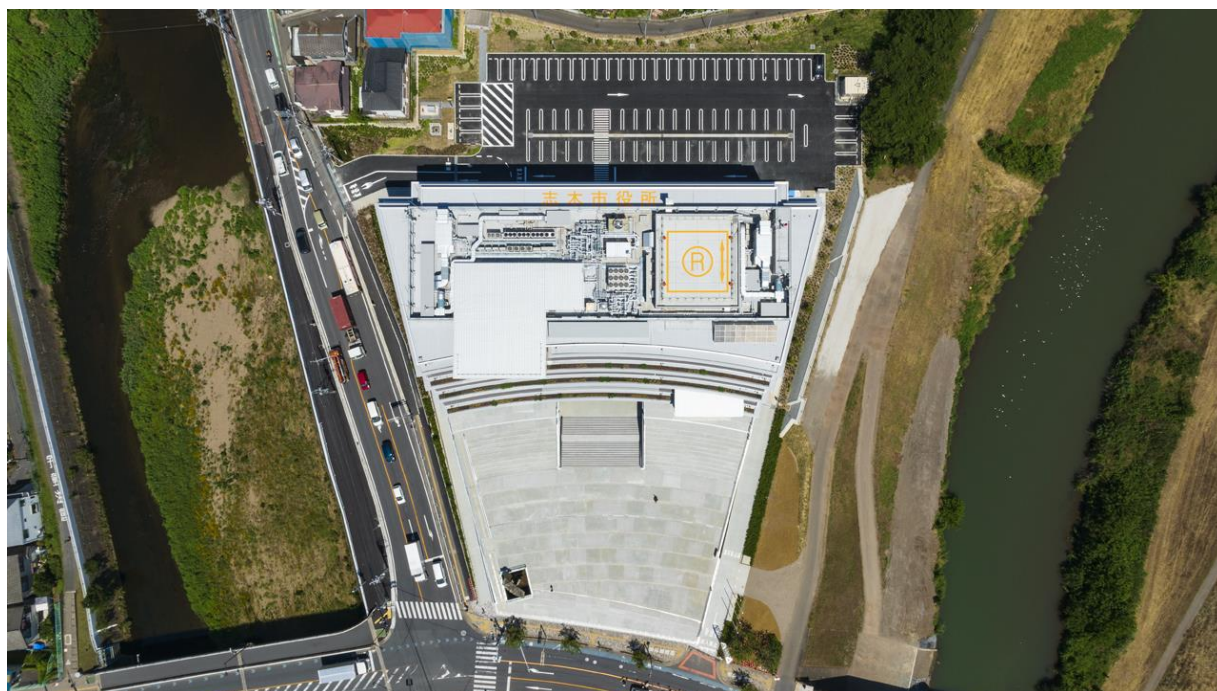
### 設計・監理者

株式会社佐藤総合計画（東京都墨田区）

### 工事施工者

志木市新庁舎建設工事〔新庁舎棟〕：鹿島建設株式会社関東支店（さいたま市）

志木市新庁舎人工地盤建設工事〔人工地盤棟〕：関口工業株式会社（志木市）



### 3 基本理念・コンセプト

新庁舎を建設するにあたり、基本理念を「小さなまちの特徴と市民力が活かせる、充実した機能が確保された「スマート」で「コンパクト」な市民に親しまれる市庁舎の建設を目指します。」とし、主なコンセプトとして次のような内容を掲げました。完成状況写真と合わせてご紹介します。

#### 1 市民が利用しやすい新庁舎

##### ●利用しやすい窓口と待合スペース

執務室は、1～3階に配置し、特に市民利用の多い窓口は、1階に集約し、配置します。また、窓口カウンターは、見通しのよい配置とし、相談等が多い窓口は、カウンターにパーティションを設けるなどにより、プライバシーにも配慮します。さらに窓口面に、待合スペースや打合せコーナーを配置し、利用者の利便性を高めます。

##### ●将来の変化にも柔軟に対応できる執務スペース

執務スペースは、フロア中央に大きく確保し、今後の組織改編にも柔軟に対応できるユニバーサルデザインとします。

#### 2 市民力のステージとなる新庁舎

##### ●開かれた市民協働スペース「市民ホール」と「展望ロビー」

従来の市庁舎機能だけでなく、市民活動をサポートする場、市民交流を促す場として、会議や講演会などのイベント会場として利用できる市民ホールを1階ロビーに配置します。また、4階には、近隣のいろは親水公園や市内を見渡せる展望ロビーも配置します。



1階 メインエントランス周辺



1階 執務スペース



1階  
市民ホール





グランドテラス（人工地盤）



4階 展望ロビー

### 3 市民の安全を守る新庁舎

#### ●地震から守る

庁舎棟は、万が一大地震が発生した場合でも業務継続ができるよう、免震構造を採用し、免震装置は、浸水被害の可能性が低い位置に設置することで、より安全な計画とします。

#### ●水害に備える

市内の過去の最大浸水やハザードマップの最大浸水を考慮し、人工地盤や新庁舎を計画するとともに、想定外の浸水に備え、機械室や電気室、災害対策本部等は、2階以上に配置します。

#### ●災害対策機能を高める

災害対策本部室、市長室及び副市長室と防災担当課を近接で配置し、有事の際は、庁内連携を最大限高める計画です。

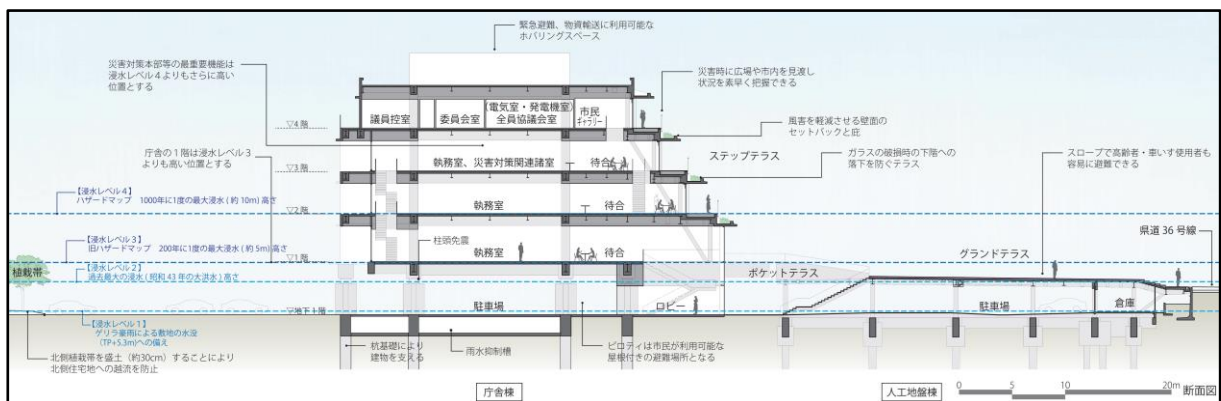


免震装置（積層ゴム）



4階 非常用発電機

### —さまざまな災害への備え（説明断面図）—



#### 4 志木市の環境と共生する新庁舎

##### ●豊かな自然環境を利用したエコ庁舎

外部からの空気を取り入れるための開口部を計画的に設置するほか、階段部分等を吹抜けとし、屋上に換気窓を設置することで庁舎内の空気循環の効率化を図ります。また、庁舎南側は、全面ガラス窓と深い庇を採用し、夏季の強い日差しを遮り、冬季の暖かな光を取り込み、冷暖房の効率化を図ります。さらに太陽光発電設備を導入し、化石燃料を使用する電力の削減に努め、CO<sub>2</sub>排出量の削減につなげます。



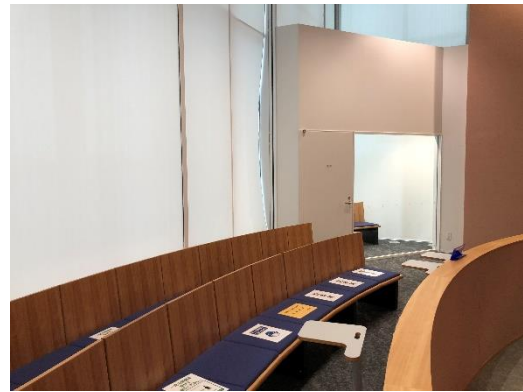
3階 庇を兼ねたテラスと南面ガラス窓



屋上 太陽光発電設備

#### 議 場

議場は、円形で段差を少なくし、コンパクトながら天井を高くしています。これにより、一体感があるレイアウトとしたほか、南面はガラス張りとして、開放感のある明るい空間としました。傍聴席は、市民の方も同じ目線で議会の模様を見ることができ、親子連れが気軽に傍聴できるよう、一角に「親子席」を用意しました。





## 4 施工のポイント

新庁舎建設工事及び人工地盤建設工事について、施工上のポイントである項目をご紹介します。

### ①基礎杭



2つの河川に挟まれた敷地に加え、支持層がGL-30m程度と深いことから、新庁舎建設工事では節付PHC杭53本と地盤改良のための砂杭を併用、人工地盤建設工事では節付PHC杭44本を施工しました。

### ②柱頭免震



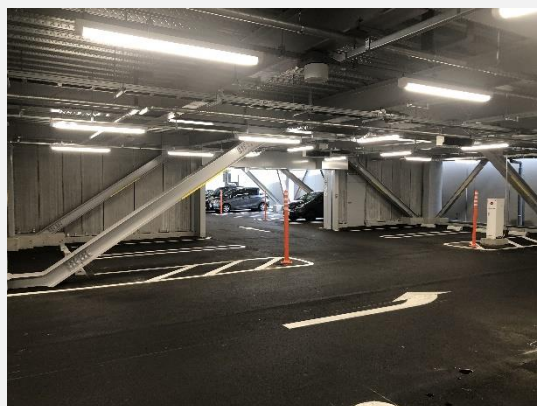
免震装置は大雨による冠水を考慮して、地下1階の柱の上部に設置しています。また地下1階の柱は、駐車場の有効スペースを確保するため十字形とするなど、庁舎建物の構造を特徴づける部分となっています。

### ③議場天井部



議場の天井は、円形の折上げ天井とし、スポット照明と間接照明を組合せて、美しく印象に残るような空間を目指しました。その下地組みは、多くの曲線部材を用いて、複雑かつ高水準の精度が求められるものでした。

### ④人工地盤



新庁舎棟と接続された人工地盤棟は、上部はグランドテラスと呼びイベントにも使える多目的な広場に、下部は主に駐車場としています。下部の鉄骨はトラスに組み、駐車空間を広く取る工夫もしています。

## 5 おわりに

コロナ禍の中、設計者、工事施工者及びすべての工事関係者の技術力と熱意により大きな事故災害なく無事竣工することができました。今後50年と言わず100年を目指して、永く市民の皆さまに親しまれる市役所としてまいりたいと思います。